田原本 極楽寺 木造 阿弥陀如来立像 修復報告書

巧匠堂

極楽寺　木造 阿弥陀如来立像

修復報告書

令和元年５月16日

巧匠堂

極楽寺 木造 阿弥陀如来立像 修復報告書

作成日：令和元年 5 月 16 日

委　　託　　者　：　極楽寺 （奈良県磯城郡田原本町大字千代 180 番地）
修 復 責 任 者　：　吉水快聞（巧匠堂代表）
施　　工　　者　：　吉水快聞　鈴木冬覺　畑景子
修　復　期　間　：　平成 30 年 10 月 4 日～令和元年 5 月 16 日
目　　的　：　自立困難な台座や光背の解体修復、本体の尊容回復
内　　容　：　台座光背は解体、構造強化、欠失・亡失部分の補作、
各部材の再接合、組み上げ、クリーニング、剥落止め
漆箔層の剥落部分の補彩、漆塗、補箔、など。

【法量】（約mm）

総高（台座光背含む） 1621

◇阿弥陀如来立像本体

像高　957　　髪際高　893　　白毫高 927　　耳張　132　　ホゾ高　56
像奥　275　　腹奥　177　　胸奥　150　　面奥　128　　肘張　306

◇台座

最大高 280　地付～蓮台天面まで　280　　最大幅　600　　最大奥　510

◇光背

総高（ホゾ含む） 1341　高（ホゾ含まない） 1298　ホゾ高　43
最大幅　586　　最大奥　271

【形状】

[本体]　螺髪、肉髻珠、白毫相を表す。耳朶環状、三道を表す。通肩に覆肩衣と、偏袒右肩に衲衣を着ける。左手は軽く垂下し、右手は屈臂して共に掌を前に向け第 1 指・第 2 指を捻じ来迎印を結ぶ。左足を少し前に出して立つ。

[台座]　連弁共彫りの蓮華座、敷茄子、返り華、框からなる。

[光背]　舟形。頭光、身光、周縁部（雲文）、光脚からなる。頭光の中心に八葉蓮華を表し、頭光内側の蓮華周縁部を透かす。上部に化仏 1 躯を表す。

【品質構造】
[本体]
木造　檜材。　螺髪を彫出。玉眼、肉髻珠、白毫は各水晶を嵌入する。挿しホゾ。
構造については、外からの目視だけでは判別しがたいがおおよそ次の通りか。
頭体幹部材は縦一材から彫出し、耳後ろで前後に割り矧ぎ、もしくは前後別材の寄木造か。内刳りをほどこして、三道下で割り首（もしくは挿首か）。両肩以下から裙裾に至る両体側部と袖を矧ぎつけ、右側面材から右袖を彫出した後、右腕上部中央あたりから袖を左右に割り離し、右腕下部を別材で寄せる。体幹部材と右袖の間に右太もも側面を別材で矧ぎつける。手首先から両手を別材で矧ぎつける。両足先は別材を矧ぎつける。表面仕上げは肉身部が漆塗りの上粉溜か、衣部分は泥地（墨を混ぜた胡粉か）の上に黒漆塗りか。

台座）
木造　檜材。泥地（墨を混ぜた胡粉か）の上に黒漆塗り漆箔仕上げ。

光背）
木造　檜材。　泥地（墨を混ぜた胡粉か）の上に黒漆塗り漆箔仕上げ。
ホゾは別材で後ろにＴ字状に寄せる。

【制作年代　】
本像の意匠や構造は鎌倉時代の仏師快慶の三尺阿弥陀如来立像の様式をほぼ踏襲するため、かつて実施された調査では鎌倉時代中期頃とされているが、台座裏には下記の年号が記されている。

正徳元年辛卯（かのと う）七月七日開山信誉一衣也
御長立像三尺阿弥陀如来
大和国十市郡八条大町行基庵　願主　信誉暫休（花押）
于時元禄十丁丑（ひのとうし）三月三日

この銘記を素直に解釈すると元禄 10 年（西暦 1697）3 月 3 日に信誉暫休が願主となり大きさが三尺阿弥陀如来立像を造立し、その後、正徳元年（西暦 1711）7 月 7 日に信誉一衣がお寺を開山したととれる。しかし本体と台座の時代性に若干の違和感も感じるので、この銘記は台座光背を補作した本像を修理した時の銘記の可能性も考えられる。それから少し気になる点として、単に書き損じただけかもしれないが願主名と開山名が削って描き直した形跡もみられる。

【保存状態】

［本体］

・少なくとも衣部分は後世に黒色の塗料による塗り直しが施された形跡がみられる。
・左手第 2 指、左袂の前側の一部欠失。
・右手第 3 指先と第 5 指後補。
・右足先亡失。
・足ホゾと蓮台との連結が緩み、自立が困難。
・各矧ぎ目の漆の割れ。
・全体的に油煙や埃の堆積がみられる。
・左袖の内側と外側、両袖の奥にドロバチの巣がみられる。
・各所に漆箔層の剥落及び遊離がみられる。

［台座］

・各矧ぎ目の緩みがみられる。
・全体的に油煙や埃の堆積がみられる。
・構造が脆弱なため、光背、本体共に自立困難な状態にある。

［光背］

・光脚左側 3 分の 1 ほどが欠失。
・各矧ぎ目の緩み及び遊離。
・全体的に油煙や埃の堆積がみられる。
・周縁部左上にドロバチの巣跡。
・T 字状に寄せたホゾの緩み。

【修復方針】

［本体］

◇ドロバチの巣が 4 箇所にみられることや像全体に油煙の付着、埃の堆積がみられ、容姿を損ねていると同時に堆積が進行により湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニングを行う。

◇本体は現状維持を基本とし、必要に応じて剥落止め、補彩、欠失した部材の補作を行い、尊容の回復を行う。

［台座］

◇全体に埃の堆積がみられ、湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニングを行う。

◇構造が脆弱なため底板、天板を外し、内部の構造強化を行う。

◇亡失、欠失した部分を補作し、違和感のないように古色仕上げとする。
◇必要に応じて剥落止め、補彩、補箔を行う。

［光背］
◇全体にドロバチの巣跡や油煙、埃の堆積がみられ、堆積が進むと、湿気やカビ、害虫被害の原因にもなるためクリーニングを行う。
◇矧ぎ目が緩んだためか後世に紐を通して補強した箇所があるが、表面に出ており見た目を悪くしているため紐を除去して、外れる部材は解体して再接合を行う。加えて、裏面から布貼りによる補強を行う。
◇欠失した部分を補作し、違和感のないように古色仕上げとする。
◇必要に応じて充填、補彩、補箔を行う。

修復前（全体）

修復後（全体）

修復前（本体）

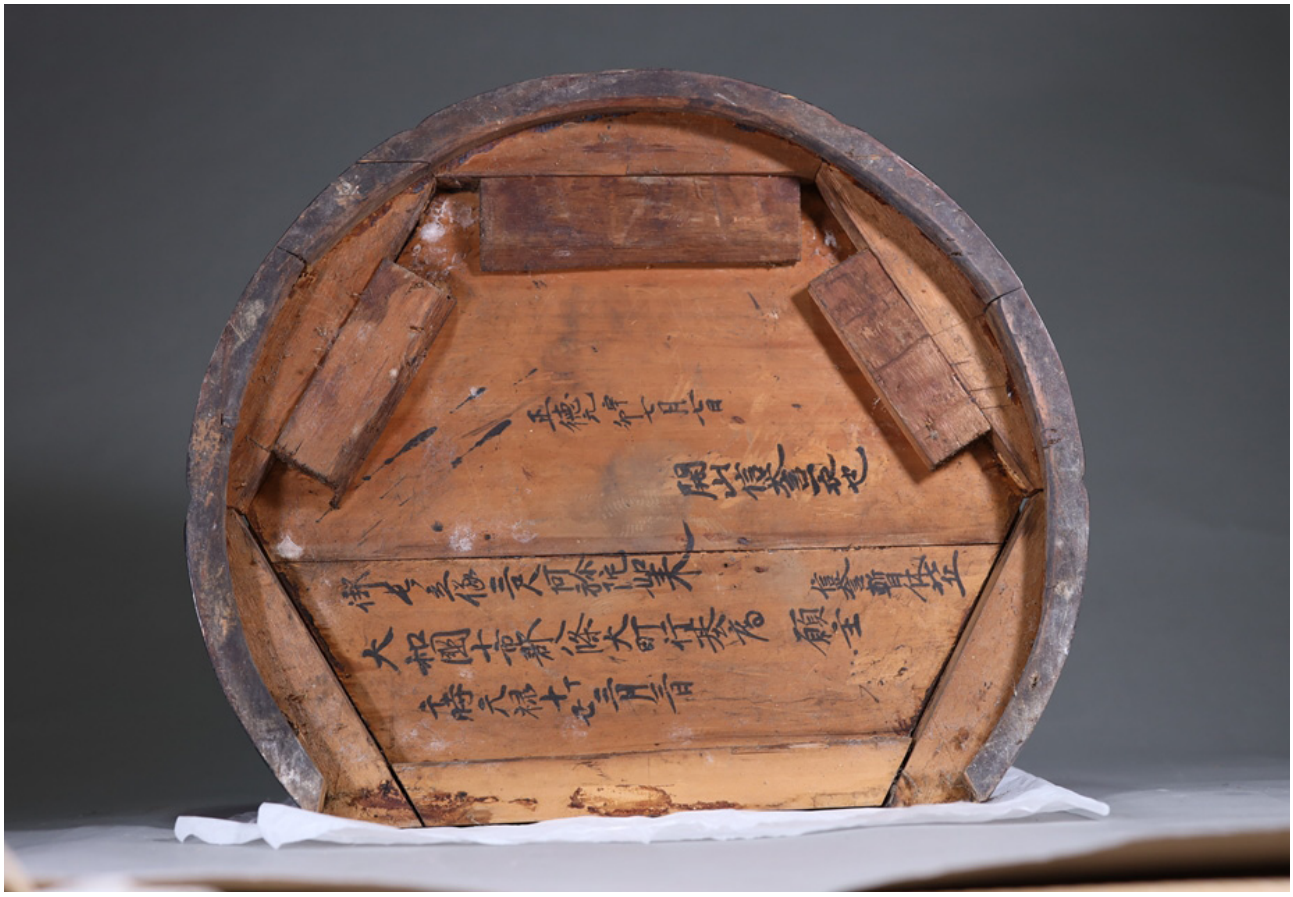
修復後（本体）

修復前（本体）

修復前（本体）

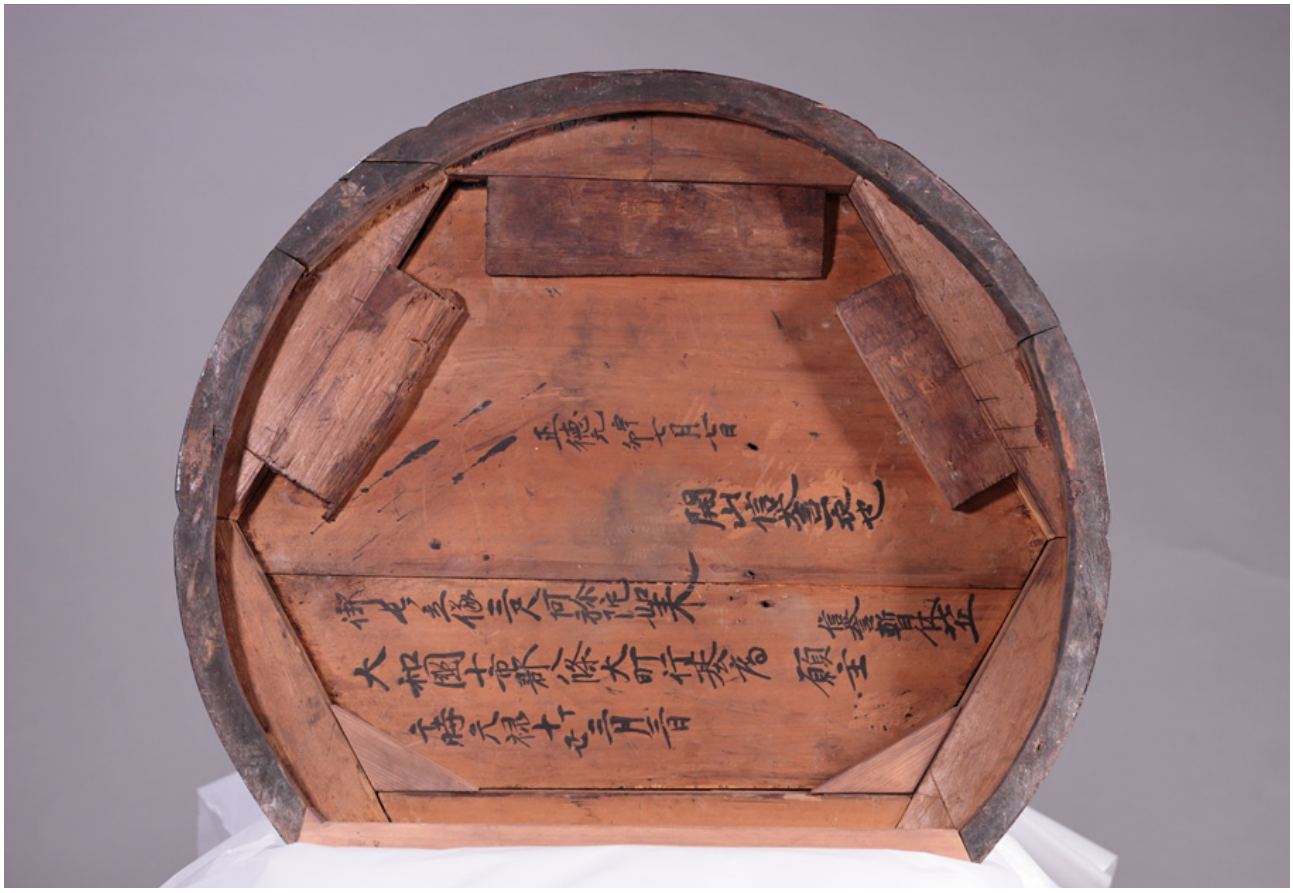
修復後（本体）

修復後（本体）



台座裏

修復前（台座）



台座裏

修復後（台座）

正面

修復前（光背）

正面

修復後（光背）

背面

修復前（光背）

修復後（光背）

【本体修復内容】

1　クリーニング

全体に埃の体積がみられたので刷毛や、ピンセットなどを使って除去。油煙などの汚れはエタノール＋精製水を含ませた綿棒を用いてクリーニングを施した。

クリーニング前（右袖奥）　　クリーニング後（右袖奥）

右袖奥にドロバチの巣、蜘蛛の巣や蜘蛛が脱皮した抜け殻などがあり、ピンセットなどで除去した。

クリーニング前（面部）　　クリーニング後（面部）

面部も油煙などの付着がみられたため、エタノール＋精製水でクリーニングを施した。
白毫や玉眼の表面はかなり汚れが付着していたがクリーニングすることにより透明になった。

左袂内側の下部のドロバチの巣跡

左袖外側の中央部のドロバチの巣跡

クリーニング前

クリーニング後

2 剥落止め

各漆層の浮上がり箇所には接着剤（アクリルエマルジョン）を注入しテフロンシートをあて熱ゴテを用いて剥落止め処置を行った。

3 欠失、亡失箇所を檜材で新補

欠失した左手第２指の新補

左袂外側の欠失部分の新補

亡失した右足先の新補

4 形状不適合な後補部材の除去と補作

後補の第３指先と第
５指の形状が不適合

後補部材の除去

檜材で新補

5 遊離した左足先の接合

左足先は既に外れていたため、竹製のダボを入れて接合した。

6 欠失した箇所や矧ぎ目などの隙間の充填

欠失箇所や矧ぎ目の隙間などには、木屎漆（漆＋小麦粉＋木粉）を充填

左袂の新補部材の矧ぎ目に充填

接合した左足先の矧ぎ目等にも充填

7 新補部材の木地固め、錆漆

木屎漆を充填した箇所や新補箇所は錆漆（漆＋水＋砥の粉）を塗り、研いで表面を整る。

1, 新補した右足先部材などに
生漆を浸み込ませて木地固め

2, 充填した木屎を硬化後成形し、
錆漆を塗って表面を整える

3, 錆漆が硬化後、研いで表面を整えて漆塗りの下地を作る。

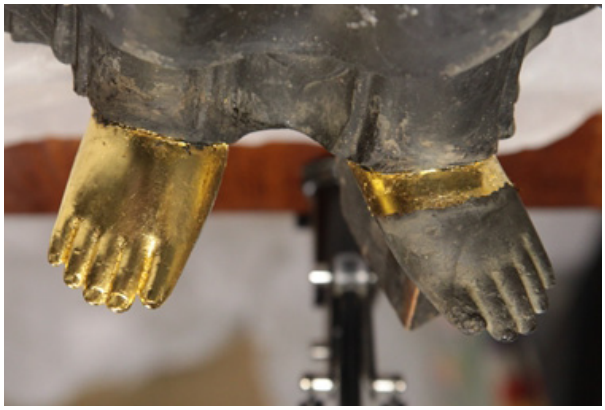
8 漆塗り

各箇所、錆漆を研いで整えた修復箇所に黒呂色漆を塗る。

9 漆箔及び古色

新補した指や右足先など金が施されていた箇所は漆で金箔を押す。

箔が定着後、漆などで古色を着けて違和感のないように古色で仕上げる。



新補した右足先や左足先の矧ぎ目の修復箇所についても同様に漆箔後、違和感のないように古色仕上げ。

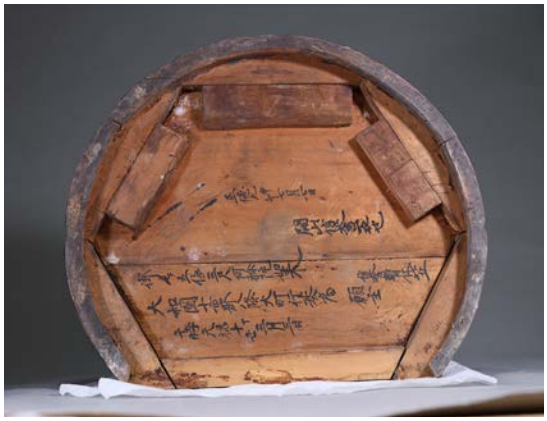
10 補彩

修復箇所や目立つ剥落箇所などは、墨、漆、アクリル絵の具などを用いて、全体に違和感のないよう補彩して仕上げる。

【台座修復内容】

1　解体

台座は内部の構造が非常に脆弱で、本体や光背が自立困難な状態であったため、解体して構造強化を行う。



修復前台座裏

1, 框の部分を外す。

2, 底板を外す。

3, 底板を外した台座。台座の中は細い角材 3 本を立てる程度の脆弱なつくりであった。

修復前台座

蓮肉天板裏

蓮肉天板表

4, 蓮肉部分を解体。

蓮肉は天板のみで、ホゾの差し込み口を小材で補強した程度の作りであった。このため本体の保持が弱く、像が自立困難な原因であったと考えられる。更に、裏の補強材を外すとバラバラになった。

5, 框、底板、蓮肉天板を外した状態の蓮華と反花

2 構造強化

1, バラバラになった蓮肉天板を接着

2, 本体のホゾが納まる蓮肉部分と芯棒を新補

3, 蓮肉を微調整して台座に入れ込む

4, 補強と芯棒の固定の為、横板を入れる

5, 補強と芯棒固定の為、縦板を入れる

6, 釘が打てない箇所はステンレス製の金具とネジで固定

7, 表から見た新補した蓮肉

8, 蓮肉の天板を戻して接合

3 各パーツをクリーニング後、組み上げ

解体した框などを酢酸ビニル樹脂（木工ボンド）で接着

4 欠失、亡失箇所の新補

修復前

欠失した反花の先を檜で新補

欠失した框右背面の角や蕊の一部を檜で新補

亡失した框の背面
の部材を檜で新補

5 框の木屎漆の充填、錆付け、塗り、古色

1, 檜で補作出来ない欠失部分や隙間には木屎漆を充填

2, 木屎漆が硬化後、削って成形

3, 錆漆を塗り、硬化後研いで下地を整える

4, 黒呂色漆を塗る

5, 半乾き状態で灰をかぶせて古色付け

6, 金箔が必要な部分には金箔を押す

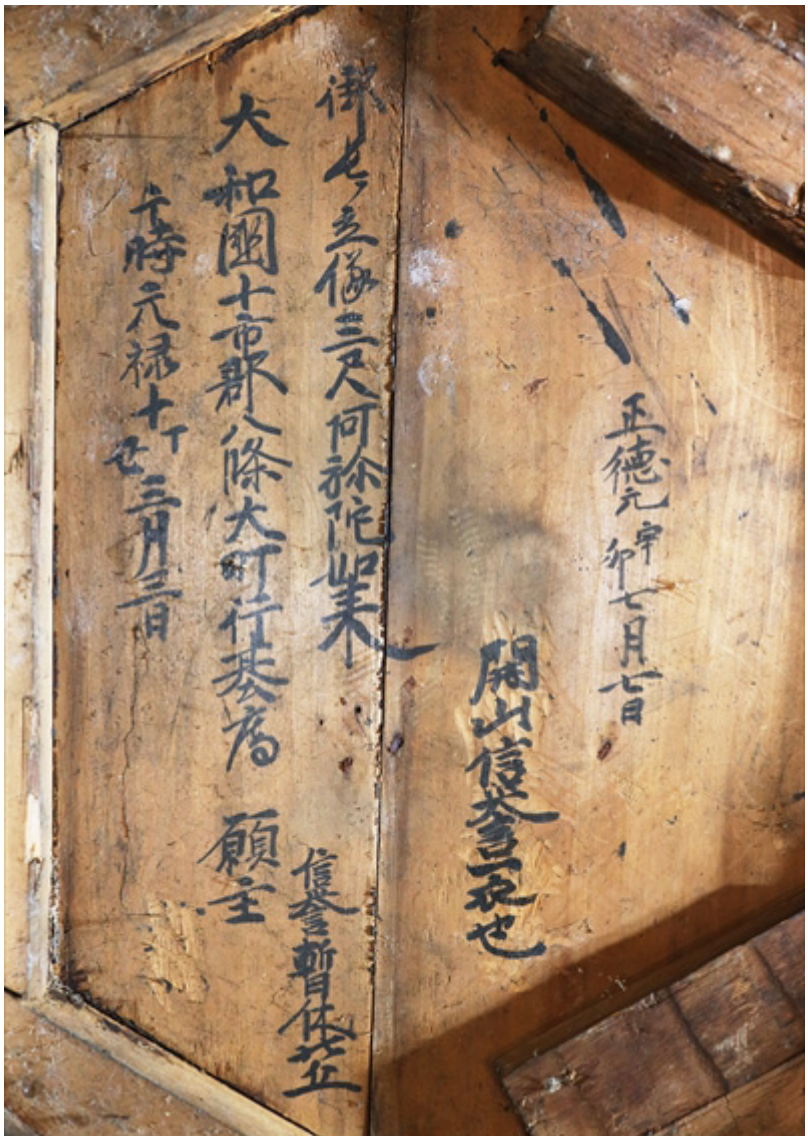
7, 古色を調節して完了

6 台座裏の補強、古色など

底板の背面側を三角材で補強

アクリル絵の具などを用いて目立たないように古色付けて修復完了

7 台座裏と台座内部の銘記



台座裏の銘記

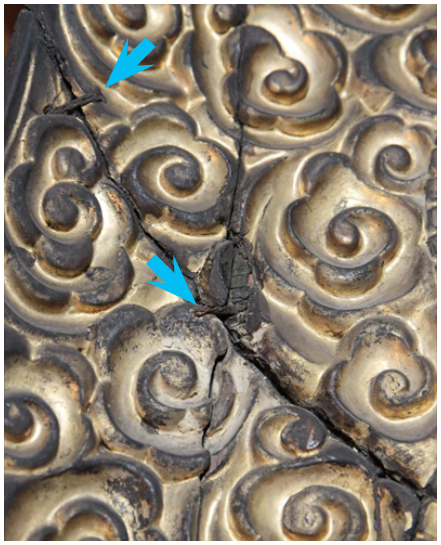
大佛師　重膳

台座内部の銘記

正徳元　辛卯　七月七日
開山信誉一衣也
御長立像三尺阿弥陀如来　信誉暫休（花押）
大和国十市郡八条大町行基庵　願主
于時元禄十　丁丑　三月三日

【光背修復内容】

1 解体



所々に後世の修理とみられる紐による補強がみられた。
紐を切って遊離するところや緩んでいる部材は解体

解体後

2 クリーニング

全体に埃の体積がみられたので刷毛を使って除去。油煙やドロバチの巣など汚れの激しい箇所はエタノール＋精製水を含ませた綿棒を用いてクリーニングを施した。

全体をクリーニング、計３～４か所にドロバチの巣が見られた。

クリーニング前

クリーニング後

3 組み上げ

各要所に竹ダボを入れて連結

酢酸ビニル樹脂で接着

5 欠失箇所の新補

檜材で欠失した箇所を制作し、酢酸ビニル樹脂で接着

周縁部左上部の欠失

八葉蓮華の上部は鼠にかじられたような欠失がみられた

別材で彫られた光脚部の左側は大きく欠失

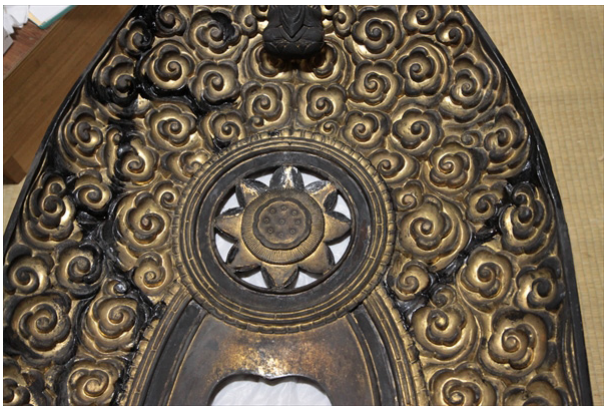
6 木屎漆の充填、新補部材の木地固め、錆漆下地、漆塗り

1, 矧ぎ目や、補作した箇所の連結部分の隙間には木屎漆を充填して隙間を埋めて成形

2, 木屎漆が硬化したら成形し、新補した箇所には生漆を塗って木地固め

3, 錆漆→研ぎを繰り返し、表面を整えてから錆漆面を生漆で地固め

4, 黒呂色漆を塗る



5, 黒呂色漆が硬化後、研いで表面を整える

7 漆箔

1, 黒呂色漆を塗った修理箇所に漆をすり込む

2, 竹ばさみを使い金箔を押す

3, 箔押し完了

8 古色付け

漆箔箇所を漆やアクリル絵の具などを使って周りと違和感のないように古色で仕上げる。

修復後

9 ホゾの再接合

T 字状に取り付けられているホゾは緩んでいたため一度外し、強度を考慮して酢酸ビニル樹脂とステンレス製のネジで固定し直した。

10 裏面の布貼り（補強）

裏面の矧ぎ目にも木屎漆→錆漆を塗って表面を整えた後、糊漆で布を貼って補強

布貼り完了

布貼り箇所に錆漆をすり込み
光背修復完了